

対話型人工知能の利用に関する5つのポリシー

近年、ChatGPTをはじめとする対話型人工知能（AI）の技術が急速に発展し、私たちの学びや仕事のあり方にも大きな影響を与えています。本校では、この技術を単なる便利な道具としてではなく、生徒の皆さんの学びを深める貴重な機会として活用してもらいたいと考えています。

生成 AI は、アイデアを広げたり、文章を整理したりするうえで大きな助けとなります。しかし、AI の回答が必ずしも正しいとは限らず、思考力や判断力を育むためには、自ら考え、吟味する姿勢が欠かせません。また、不適切な使い方をすれば、学びの機会を損なうだけでなく、倫理的な問題を引き起こす可能性もあります。そのため、本校では下記のような「対話型人工知能の利用に関する5つのポリシー」を設け、活用を推進していきます。

保護者の皆さまにも、この方針をご理解いただき、ご家庭での活用についてお子さまと話し合っていただければ幸いです。生成 AI を正しく活用し、主体的に学ぶ力を育んでください。

1. 学習支援としての適切な活用

生成 AI は、生徒の学習支援ツールとして活用することができる。ただし、レポートや課題の解答をそのまま AI に生成させるのではなく、自らの思考を深めるための補助として利用することを前提とする。学校では、AI の活用方法を指導し、適切な使い方を学ぶ機会を提供する。

2. 倫理的かつ責任のある利用

AI を利用する際は、著作権や個人情報保護を尊重し、不適切な内容の生成を防ぐことが重要である。他者を誹謗中傷したり、虚偽の情報を拡散することのないよう、倫理的な利用を徹底する。また、自身の成長を促すことを目的とした利用を心がける。

3. 教育現場における透明性の確保

授業や指導の中で生成 AI を使用する場合、教員はその目的や方法を明確に説明する。また、生徒が AI を使用した場合は、その使用の有無を明記し、どの部分に AI を活用したのかを説明できるようにする。学校全体で、生成 AI の活用状況を定期的に確認し、適切な運用を促進する。

4. AI の限界を理解し、批判的思考を育む

生成 AI は完璧な情報を提供するものではなく、誤った情報を出力する可能性がある。そのため、生徒は AI の出力を鵜呑みにせず、複数の情報源を比較し、批判的に考える習慣を身につける必要がある。教員は、生徒が AI を活用しながらも、自らの判断力を養うよう指導する。

5. 保護者への情報提供と、家庭との連携

生成 AI の利用については、保護者にも情報を提供し、家庭と学校が連携して適切な使い方を指導することが重要である。保護者に対しても十分な説明を行い、生徒の AI 利用に関する理解を深めてもらう。また、家庭においても、AI の活用に関するルールを設けることを推奨する。